



## ～「ホタルまつり」の由来～

志和堀のホタルまつりは昭和61年、志和堀小学校が「ホタルの里づくり」の指定校を受けたことを契機に、翌年の6月、青少年の健全育成と地域づくりのねらいをもって、PTAの全面的な支援のもとに始まりました。

当時はまだ規模も小さく、PTAによるホタルの作品募集や焼き肉大会、ホタルの乱舞という簡単な内容でありましたが、子どもたちのために「あたたかいふるさとづくり」を進めたいという地域の熱意で年々盛りあがってきました。

そして今、ホタルまつりは次のような3つの目標で行っています。

- ○ みどり豊かな志和堀の自然を保護し、ホタルのすむ清らかな環境づくりを推進する。
- ○ まつりを通して学校・家庭・地域との連携を深め、相互信頼と協力のある地域づくりに寄与する。
- ○ 学校・家庭・地域が一体になり、豊かな心といのちを大切にする児童・生徒の健全育成に取り組む。

4月初旬、ホタルまつり実行委員会が設けられます。地域各団体が志和堀公民館に集まり、何回も協議し、テーマ、予算、イベント、出店、警備等の内容が検討されるのです。忙しい農作業の合間をぬっての集まりではありますが、各団体の知恵と工夫が出され、学校・PTA・地域が一体となったまつりが形づくられていきます。

まつりが近づくるとサルビア街道には、幟を立てられ、メイン会場となる志和堀小学校には、1週間前から実行委員会のメンバーはもとより地域の多くの人たちの支援を得て、ステージや水車が設置されます。小学校の児童は、ホタルまつりを中心に郷土に親しみ、環境を考える学習を進めます。また、ホタルの鑑賞会場となる太田川の支流の半川は、PTA、イサホ会、青年会等がホタルのパトロールを行い、みんなでホタルを大切に、見守っているのです。名所「蛍見橋（ほたるみばし）」「蛍恋橋（ほたるこいはし）」の名称からも、地域の人々のホタルへの思いを感じ取ることができます。このように、清らかな川、ホタルのとび交う志和堀の里を地域で守り、育てるために、その象徴ともなる「ホタルまつり」を地域と学校が一体になって続けているのです。

今年は第24回になりますが、町内の小学校3校の児童と中学校の生徒さんが参加します。志和町内の地域の皆様、保護者の皆様、多くの皆様方にお出でいただければ幸いです。

みなさん！ ホタルは捕らないでくださいね！！

